

教育目標	かしこく、明るく、たくましく、豊かに創造する子		総合評価			
運営方針	自ら課題をもち、自ら考え、判断し、自ら解決・創造する活動を通して、自主性や主体性、自尊感情等を育み、人として自立・自律できる児童を育てる。					
令和4年度の成果と課題	指導の重点目標	具体的目標				
<p>【成果】・体験活動やICT機器を活用した探求活動を行うなど、目標をもって調べ学習をすることができた。</p> <p>・「数学的な見方考え方」を働かせる授業をすることで、児童はあきらめずに問題解決法を考えようとするようになってきた。また、共通した掲示や教材を工夫し作成した。</p> <p>・ICTを活用することで、教員の業務の効率がよくなった。</p> <p>【課題】</p> <p>・学校生活を見つめ、課題を見いだす力のさらなる育成が必要である。</p> <p>・家庭での読書習慣が少ない。学校での読書環境整備とともに、家庭と連携を取り本に親しみ本が好きな児童を育てたい。</p>	<p>(豊かな心・ふるさと教育)</p> <p>・道徳の時間を中心にさまざまな教育活動を通して、人としてよりよく生きようとする道徳性を養うとともに、あいさつをきっかけに周囲の人との繋がりをもち、ふるさとに誇りをもって生きていく児童を育てる。</p>	<p>○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にして、互いに認め合う心や自立・自律の心を通して、確かな人権意識を育てる。</p> <p>○主体的に地域に関わり、地域から学ぶことで、地域を知り、その一員として貢献しようとする意欲や態度を育てる。</p> <p>○気持ちのよいあいさつから、人間関係の形成能力・コミュニケーション能力・自主性や主体性の向上をめざす。</p> <p>○理科学習を軸に、課題に対して見通しをもち、筋道立てて解決しようとする授業を工夫し、児童の「考え、深める力」を向上させる。</p>				
	<p>(確かな学力)</p> <p>・各教科の特質に応じた言語能力を育成すると共に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を育てる。</p>	<p>○ICT機器の活用や、読み解く授業、環境整備をすることで、読解力向上をめざす。</p> <p>○読書や家庭学習及び自主学習などの基本的な学習習慣を身につけさせることにより、学習に積極的に取り組む意欲や態度を育てる。</p>				
	<p>(健やかな体)</p> <p>・健康や安全について理解を深め、基本的な生活習慣の定着を図ると共に、体力向上を目指して運動に積極的に親しもうとする児童を育てる。</p>	<p>○自分の健康や安全について、自ら改善していこうとする意欲と実践力を育て、基本的な生活習慣を家庭と連携して定着させる。</p> <p>○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、運動する意欲を高め、体力や運動能力を向上させる。</p>				
	<p>(働き方)</p> <p>・業務のスリム化及び時間の効率化を図り、心身ともに健康でいられる働き方改革を推進する。</p>	<p>○業務のスリム化や効率化を遂行し、ワークライフバランスの推進を図ることで、笑顔で児童と向かい合い、教育の質を向上させる。</p>				
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
豊かな心・ふるさと教育	○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にして、互いに認め合う心や自立・自律の心を通して、確かな人権意識を育てる。	<p>○道徳的価値(自立心、共に考え生きようとする態度、規範意識、生命の美しさなど)の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることができるよう育成する。具体的に、児童が道徳的事象を自分事として考えられるように、自分の経験を話す機会を設ける。さらに、考えたことや気づいたことを発表したりワークシートに書いたりさせることで、自己の生き方についての考えを深められるようにする。</p> <p>○年間を通して、人権意識が高まったかどうかを、道徳ノート、授業の態度や生活の様子から把握していく。</p> <p>○自己有用感を高め、一人一人のちがいを共に認め合うことができるなかまづくりを目指す。具体的に、人権を確かめ合う日の取組、「人権の花」を咲かせようプロジェクト、副教材の活用、キラキラタイムの充実を、継続的に行う。</p> <p>○児童が取り組んだワークシートや、発表をもとに成長の過程を把握していく。</p>				
	○主体的に地域に関わり、地域から学ぶことで、地域を知り、その一員として貢献しようとする意欲や態度を育てる。	<p>○生活科や総合的な学習の時間では、村のことに触れる体験活動「地域探検・村内めぐり・防災学習・森林学習・歴史学習」を行う。また、生活の中から地域に関わる探求課題を見いだし、課題解決「探求課題の設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現(伝承)」をできるよう育成する。</p>				
	○気持ちのよいあいさつから、人間関係の形成能力・コミュニケーション能力・自主性や主体性の向上をめざす。	<p>○児童が笑顔で気持ちの良い挨拶ができるように日々意識して、教職員が声かけをしたり、ほめたり、さらには教職員も、よいあいさつを日々積極的に言ったりしていく。</p> <p>○「あいさつ」について、全教職員が、意図的な指導を毎日継続的に行うようにする。</p> <p>○学級や学校生活(委員会・クラブ等)をよりよくするために課題を見いだし、課題について話し合い、合意形成し、実践(役割分担・協力)し、解決することを通して、児童が主体的に活躍し輝ける素地を養う。</p>				
確かな学力	○理科学習を軸に、課題に対して見通しをもち、筋道立てて解決しようとする授業を工夫し、児童の「考え、深める力」を向上させる。	<p>○理科の学習の過程における「予想すること」を重要視し、探求のプロセスを繰り返し行うことで、見通しをもちやすくできる授業展開になるように工夫する。また、「理科タイム」を設けるなど理科について理解を深めたり、地域素材を活用したりすることで児童の興味・関心を高め、見通しをもてるようにしていく。県の学力診断を活用し、習熟度を確認する。また、昨年度の記録より学級平均を上回るように指導を行う。</p> <p>○特別支援学級では、児童の理解度に合わせて学習内容や進度を調整し、計画的に繰り返し学習することで定着を図る。また、個に応じて教材や教具を工夫することや、実験や観察を丁寧に行うことで、理解を深められるようにする。個別の指導計画での達成度から検証する。</p>				
	○ICT機器の活用や、読み解く授業、環境整備をすることで、読解力向上をめざす。	<p>○教科書や資料の図やグラフの結びつきを確認したり、QRコードを活用したり、授業の前に児童が理解できないと推測される語や表現を調べたりして、充実した授業展開になるようにICT環境を整備していく。電子図書館や朝日デジタル小学生新聞を学習内で活用したり、読解力向上プロジェクトのモデル授業を活用したりする。</p>				
	○読書や家庭学習及び自主学習などの基本的な学習習慣を身につけさせることにより、学習に積極的に取り組む意欲や態度を育てる。	<p>○読書タイムや図書委員会活動などを通して、さまざまな本に触れる機会を増やしたり、国語科の学習と関連した図書コーナーから並行読書を推奨したりして読書に親しむ態度を育てる。</p> <p>○学習内容に即して児童が学びやすく、分かりやすい宿題を設定したり、コグトレや eライブラリを自主学習に推奨したりして、家庭学習の習慣化を図る。宿題の設定として、日記や音読、読書を入れるなど教職員間で共通した意識をもって取り組む。</p>				
健やかな体	○自分の健康や安全について、自ら改善していこうとする意欲と実践力を育て、基本的な生活習慣を家庭と連携して定着させる。	<p>○生活習慣や安全意識に関するアンケートを実施し、その結果や毎月の保健目標などを保健掲示板に掲示すると共に、全校集会・下校会で呼びかけることで、健康・安全に過ごす意識を高める。生活習慣や安全意識に関するアンケート結果や、児童の学校生活での様子や保健室の来室状況から健康・安全に関する意識を把握していく。</p> <p>○栄養教諭による月目標に沿った指導をし、食への感謝の気持ち・食べる喜び・マナーを育てるようになる。給食での児童の様子や残食量などから児童の実態を把握していく。</p>				
	○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、運動する意欲を高め、体力や運動能力を向上させる。	<p>○休み時間の外遊びを推奨したり、県教委が実施する「外遊び、みんなでチャレンジ！」に組み込み、記録を掲示することで、運動に挑戦する意欲を高めるとともに、色んな運動種目を取り入れ、運動する楽しさを味わわせる。また、週一回の縦割り班で運動する機会を取り入れ、異学年で運動する機会をもったり、運動種目の好悪度を把握したりする。</p> <p>○スポーツテストで課題として柔軟性と持久力が挙げた。柔軟性を高めるためにストレッチコーナーを設置する。持久力を高めるために業前活動のジャンプアップを行ったり、冬期にはマラソンを行ったりする。また、運動能力の向上のために、高校の体育科教員を招聘し、スポーツテストの事前指導を受ける。さらに、教員が講習を受け、授業支援をってもらうことで指導力の向上につなげる。昨年度のスポーツテストと今年度の体力テストを比較し、児童の実態の理解に努め、成果と課題を把握する。</p>				
	○業務のスリム化や効率化を遂行し、ワークライフバランスの推進を図ることで、笑顔で児童と向かい合い、教育の質を向上させる。	<p>○業務内容を精選し、職員間の連携を図り、業務を分担することで効率よく協力して仕事を進めることができるようにする。</p> <p>○チームや隣接学年で教材教具・ICT活用などを共有することで、質の高い教育のための手法を身につける。</p> <p>○クロックアウト時刻を意識し、月45時間までの超過勤務を目安にしながら効率的に業務を進める。</p>				
働き方						